

2026年3月13日 会報175号	<h1>かわち野に吹く風</h1>	東大阪文化財を学ぶ会 会長 南 光弘
----------------------	-------------------	-----------------------

魅力満載の京都名所旧跡めぐり

1. 実施日 2026年3月26日(木) 雨天決行(荒天中止)
2. 集合時間 9時30分(受付9時20分) ※緊急時090-83759655(南)
3. 集合場所 JR京都駅 中央口を出てバス停近くで集合
 9時40分前後のバスに分散乗車します。路線バス205、206系統。
 *新大阪、8時51分発、JR京都線新快速6号に乗車。9時15分に京都駅に到着
 新大阪、8時41分発の新快速もある。

4. 費用 大仙院拝観料(500円)
5. 昼食 弁当を持参ください。船岡山公園で昼食。
6. 行程 全行程徒歩約8km

京都駅→(路線バス)→大徳寺境内、山門(金毛閣)、仏堂、千体仏、大仙院・庭園見学、総見院・織田信長墓、
 →建勲(たていさお)神社→船岡山公園→平野神社→北野天満宮→(京福電鉄)→御室、仁和寺・金堂・菅原道真
 腰掛石など→(解散)帰路は、徒歩15分ほどでJR花園駅→京都駅。または、バス分散乗車、四条大宮(阪急)、
 京阪三条、JR京都駅方面へ

① 竜宝山大徳寺 臨済宗大徳寺派本山

正中元年(1324)大燈国師が創立した禅寺。南禅寺とともに五山の上位にあったが、応仁ノ乱で全焼し、文明年間(1469~86)に一休禅師が堺の豪商の援助を得て再興した。禅宗建築の典型といわれる洛北第一の大伽藍で、勅使門・三門・唐門・仏殿・法堂・方丈などが直線上に建ちならび偉観を誇っている。また、ここは茶の湯との結びつきの深い寺でもあり、千家流茶の湯の開祖として有名な千利休も、当寺に参禅して茶道を完成したと伝えられている。



<大燈国師>(1282~1337)鎌倉時代の臨済宗の僧、播磨(兵庫県)の人。本名宗峰妙超。禅僧中で最もすぐれた書家として知られている。

<一休禅師>(1394~1481)一休宗純という。文明6年大徳寺住持48世となったが、その後は一所不住の生活を送り、当時腐敗していた禅宗精神を狂詩・奇行などにより風刺した。「一休頓智咄」などの伝説的な逸話でよく知られているが、ほかに「狂雲集」「続狂雲集」などの詩集がある。なお、一説には後小松天皇の落とし胤(だね)ともいわれている。

<千利休>わび茶を大成した。大永2年(1522)、堺の裕福な町衆魚屋「ととや・姓は田中」の長男として生まれた。17歳の時、北向道陳(きたむきどうじん)に茶湯を学び、後に武野紹鷗(たけのじょうおう)に師事。同じく堺の豪商・今井宗久の推薦で、織田信長や秀吉の茶頭として仕えた。北野の大茶会を取り仕切るなど、天下一の茶匠として権勢を振るった。現在の茶道千家の始祖で、今も茶聖として敬われている。

<国宝>唐門、方丈及び玄関・絹本墨画淡彩観音図(牧溪筆)・絹本墨画淡彩猿鶴図(牧溪筆)2幅・後醍醐天皇宸翰御置文・虚堂智愚墨跡(達磨忌枯香語)・絹本着色大燈国師像(健武元)・浴室。

<重文>勅使門・山門・仏殿・法堂・鐘楼・庫裡・方丈・唐門・法室・経蔵・絹本着色大燈国師像2幅・絹本着色醍醐天皇御像・絹本水墨竜虎図(牧溪筆)・同楊柳観音図2種・同五百羅漢像(林庭珪筆)82幅など

・唐門 天正年間(1573~92)に秀吉が造営した聚楽第の遺構と伝えられ、一名日暮門ともいう。勅使門と同じ四脚門で、細部には丸彫の獅子をはじめ、松に孔雀、滝に鯉など、桃山時代特有の華やかな彫刻が施しており、大徳寺中で最もすぐれた建造物である。

- ・勅使門 総門を入ったところにあり、寛永 17 年（1640）皇居の南門を移したものである。桧皮葺きの四脚門で、前後の軒に唐破風をつけた切妻屋根があり、彫刻などには桃山時代の様式がよく表わしている。
- ・三門（金毛閣）現在の三門（山門）は、応仁の乱後の享禄 2 年（1529）、連歌師・宗長によって下層が寄進され、天正 17 年（1589）、千利休が上層を完成させて「金毛閣」と名づけられた。千利休は、三門修築にあたって楼上に自身の木像を安置。入母屋造り 5 間の唐様の楼門で、左右に山廊がついている。天井に安土桃山時代の絵師、長谷川等伯（1539～1610）の竜の絵がある。
千利休は、天正 19 年（1591）2 月 28 日、秀吉の怒りにふれ自刃した。享年 70 歳だった。死後、利休の首は一条戻橋で、自身の木像に踏ませる形で梟首されたと伝えられている。一説では、秀吉を、自身の木像が置かれた金毛閣を通らせたからという。しかし、秀吉が怒りだしたのは、造替から 2 年がたっていた。別に自刃に至った訳があるのだろうか？
- ・仏殿 別名を大雄殿ともいい、寛文 5 年（1665）の再建。唐様建築の代表的なもので、禅寺の特色がよく表わされている。内部に大燈国師像・釈迦像が安置してある。
- ・法堂（ほつとう）寛永 13 年小田原城主稲葉正勝が再建したといわれている。正面 7 間、側面 6 間の重層入母屋造りで、仏殿と同じ唐様建築。内部は瓦敷で正面に壇があり、天井に狩野探幽筆の丸竜が描かれている。
- ・方丈 庫裡の東、法堂の北東にある。嘉永 13 年（1636）後藤益勝が建立したもので、単層入母造りの住宅風の建物。内部間仕切の襖絵は、狩野探幽の水墨山水図である。

② 大仙院 庭園見学

永正 6 年（1509）に大徳寺 76 世住職、古嶽宗亘（こがくそうこう、大聖国師）によって創建された。現在 22 に及ぶ大徳寺塔頭中、北派本庵として最も尊重重視される名刹である。

単層・入母屋造りの方丈があり、禅宗の方丈建築としては最も古い遺構のひとつとされている。「床の間」が現れるのもこの時代で、大仙院の床の間は日本最古とされ、「玄関」も日本最古の玄関として国宝に指定されている。

- ・大仙院書院庭園（国の史跡・特別名勝）

室町時代を代表する枯山水庭園である。本堂（方丈）北東の室である「書院の間」の北から東にかけて築庭されている。鶴島と亀島の間蓬莱山から流れ落ちる滝が、大河となって大海に流れ込む様子を表現し、滝、橋、舟などをすべて石で表す。狭い面積に広大な景観を表現したもので、足利義政から贈られた名石をつかって古岳宗亘による作庭とみられる。

- ・開山 六角政頼。
- ・国宝 本堂・大燈国師墨跡。
- ・重文 紙本淡彩四季耕作図（伝之信筆）8 枚・紙本着色花鳥図（伝元信筆）8 枚・紙本墨画山水図（伝相阿弥筆）12 幅。

③ 総見院・織田信長墓

大徳寺の塔頭寺院。信長の一周忌に当たる天正 11 年（1583）、その追善菩提のために秀吉が建立したもので、当時は広大な境内に豪壮な伽藍が立ち並んだと伝わるが、明治の廃仏毀釈によりその多くが失われた。開祖は千利休参禅の師でもあった古溪宗陳（こけいそうちん）。境内には秀吉がこよなく愛し、また日本最古の胡蝶侘助とされる、樹齢約 400 年の侘助椿がある。

境内墓地には、信長をはじめ、信長一族の徳姫（信長の息女）、濃姫（帰蝶、正室）、おなべの方（側室）など、7 基の五輪石や墓碑が並んでいる。

④ 建勲（たけいさお）神社 祭神、織田信長 など

船岡山の山頂にある建勲神社。標高 45m とそれほど高くないが、京都市内と東山三十六峰の眺望は絶景といえる。

明治天皇の命により、戦国乱世を治め天下統一に導いた織田信長を称え、明治 13 年に船岡山中腹に創建されている。

建勲神社の本殿、拝殿等は素木本来の美しさを生かした明治初期の神社建築で、国の登録有形文化財に指定されている。

拝殿は入母屋造妻入檜皮葺の壮大で優美な屋根が特徴的な建物で、内側には羽柴秀吉、柴田勝家、前田利家など信長の下で特に武功を挙げた功臣たちの絵が飾られている。

建勲神社は、刀剣にゆかりのある神社としても知られており、桶狭間の戦いで、今川義元から信長の手へ渡った重要文化財「義元左文字（宗三左文字）」や、織田信長が愛用したと伝わる短刀「薬研藤四郎（再現刀）」など、刀剣ファンにはたまらないものばかり。



⑤ 平野神社 旧社格では官幣大社、「神院」「平野神宮」とも記されていた

室町時代に建立された金閻寺を含めた 1.5 km四方という広い範囲が境内域で、朝廷の崇敬のあった有名な神社。もとは平城京に在った田村後宮にあったが、延暦 13 年（794）に桓武天皇が現在地へ移している。

社殿は、重要文化財で、寛永年間（1624～43）の再建で、4柱の神を祀る第一殿から第四殿 2 棟からなり、いわゆる平野造り（比翼春日造りともいう）として知られ、とくに接木材を使った拝殿は、特異な建築様式として有名である。本殿第一・第二殿（重要文化財）は、寛永 3 年（1626 年）建立。本殿第三・第四殿（重要文化財）は、寛永 9 年（1632 年）の建立。また、境内に京都御所から移築した御門や社務所がある。

祭神は、主祭神「今木皇大神（いまきすめ大神）」と、久度神（くどの神）、古開神（ふるあきの神）、比賣神（ひめの神）の 4 柱。なお、「皇大神」とは伊勢神宮など 5 つの神社の大変格式が高い神。

さて、今木皇大神とは、平野神社の由緒書きによれば、「源氣新生・活力生成の神」とされ、宮中で天皇を守護する神として祀られていた。延暦元年（782）には『続日本紀』に「田村後宮の今木大神に従四位を授ける」と記録されている。平野神社は、『延喜式』延長 5 年（927）で皇太子の親祭が定められた唯一の神社とされ、今木皇大神は皇太子守護の性格を持つ神とされた。

「今木」とは、今、来た渡来人のことか。5 世紀後半頃の渡来系の氏族、西文氏、白猪氏や百済系渡来氏族の「飛鳥戸造（あすかべのみやつこ）」などと考えられる。

桓武天皇の生母は高野新笠。父は祖先を武寧王（ぶねいおう、第 25 代百済王）とする百済系の渡来人、和（やまと）乙継、母は土師真妹（はじのまいも）という。野見宿禰で知られている土師氏からは大江氏・菅原氏・秋篠氏などが分かれている。

因みに、お隣の天曆元年（947）創建の北野天満宮の祭神、菅原道真の出自も勿論、土師氏。

今木皇大神とは、高野新笠（桓武天皇生母）の祖神を起源として、平安時代には神階が急上昇、貞観 6 年（864）に正一位（神階の最高位）を授けられるなど、国家祭祀の中心に組み込まれた稀な神様と言える。

<平野神社の桜>種類は約 50 種

円山公園の枝垂桜の祖の桜も含め、境内全域では約 400 本の桜がある。10 月頃から咲き続ける十月桜を除くと、3 月初旬に河津桜が開花し、中旬頃からは魁桜（さきがけ）が開花する。（これが咲くと、いよいよ京都の花見シーズンの幕開けと言われ、彼岸頃には満開になる）、その後は様々な桜が次々と開花、5 月の連休頃まで常に満開の桜を楽しめるという。



⑥ 北野天満宮 菅原道真の霊を慰めるため天曆元年（947）に創建

菅原道真は、宇多天皇に信頼され重用され、醍醐天皇の代では右大臣にまで上り詰めた。宇多上皇は大納言に藤原時平を、権大納言に菅原道真を任命した。宇多天皇は醍醐天皇に譲位、901 年に藤原時平が醍醐天皇に「道

真は謀反を企てている。」と讒言し、醍醐天皇はこれ信じて道真を大宰府に流刑としてしまった。

延喜3年(903)2月25日、太宰権帥(ごんのそつ)で没した道真(59歳)の霊を慰めるため、天曆元年(947)に天満天神として祀られることになったのが起こり。以来、朝廷の尊崇も篤く、学問の神としても広く崇敬され、各地に分社が建てられている。

北野天満宮の建立の地は、陰陽道では北西の方角を「天門」といって、とりわけ重要視されており、その天門寒風や疫神、災害が入ってくる天門の方角に建てられている。また、北野天満宮の境内「御土居(おどい)」の横の紙屋川や「太閤井戸」が表しているように、清水の豊富な所でもあった。

現在の建物の多くは、慶長12年(1607)豊臣秀頼が片桐且元に命じて造営したもので、本殿・拝殿をはじめ、中門・東門・回廊・透塀・後門などがある。また、北野縁起や名剣鬼切丸などを収蔵している宝物殿が、楼門を入った右側にある。

〈国宝〉 本殿・石ノ間・拝殿及び楽ノ間・紙本着色北野天神縁起(伝画藤原信実詞藤原良経筆)9巻。

〈重文〉 中門(三光門)・東門・回廊・後門・透塀・舞楽図絹本着色衝立障子・紙本着色北野天神縁起絵巻(伝行光筆)2巻・同北野天神縁起(画光信筆)3巻・同北野天神縁起(画光起筆)3巻・紙本墨画雲竜図友松筆6曲1双。

《中門(三光門)・重文》 三光=太陽・月・星の光のこと
単層入母屋造り、桧皮葺きの四脚門で、正面に後西(ごさい)天皇筆の「天満宮」の額が掲げられている。正面・背面の軒唐破風には豪華な彫刻が施されている。朝日と満月の彫刻は確認できる。さて、星は何処に?

《本殿》(国宝)

桧皮葺きの権現造りで特に屋根の構造が複雑なので、俗に八棟造りともいわれている。床の低い石ノ間によって拝殿と結ばれ、正面に千鳥破風、向拝に唐破風をつけ、拝殿の左右には楽ノ間がある。また、臺股(かえるまた)には竜・虎・獾(ばく)・きりん・唐獅子など、多種多様の装飾彫刻がある。

《拝殿》

構造は桃山初期にみられる権現造りの代表的なものである。正面には千鳥破風と唐破風とがあり、向拝の臺股には美しい彫刻が施されている。なお、境内には、渡辺綱が奉納したものと伝えられる石灯籠がある。

《北野天満宮の七不思議》

1. 影向松(ようごうのまつ) 表参道の大鳥居(一ノ鳥居)のすぐ右手。天曆元年の植樹という。初雪の時に菅原道真降臨するという。影向=降臨
2. 筋違の本殿 楼門参道の正面には文字天満宮が、すぐ横に摂社の地主社が鎮座している。
3. 星欠けの三光門 欠けた星とは北極星のこと。平安時代、御所は現在の場所とは異なり当宮を北西に臨む千本丸太町に位置し、当宮に向かって見ると、三光門の真上に北極星が輝いていたから、という。
4. 大黒天の燈籠 三光門の少し東南に立つ。大黒の口に小石をのせて落ちなければ、その小石を財布に入れて祈るとお金に困らない。試す価値あり
5. 唯一の立ち牛 神牛は臥牛(伏した牛)の姿。一体だけ立ち姿の神牛が、拝殿の欄間・臺股に刻まれている。
6. 裏の社 本殿の背面に「御后三柱(こうのみはしら)」という神座がある。道真の先祖、天穗日命。祖父菅原清公(きよきみ)卿、父の菅原是善卿の三柱。
7. 天狗山 境内の北西の角にある天狗山。
都の守護を司った乾(北西)に立つ北野天満宮。その境内のさらに乾にあり、特に神聖な場所



⑦ 文子（あやこ）天満宮 ※楼門から真っ直ぐ北へ。ここがポイント

多治比文子が道真を最初にお祀りした社。かつては西ノ京にあったが明治時代にこの地に遷宮。

道真を讒訴（ざんそ）した者が不慮の死をとげた、延喜8年（930）6月28日清涼殿に落雷があり、大納言藤原清貴ら殿上人5人が死亡した。これは道真の祟りとして、大いに恐れられていた。道真の怨霊への信仰が高まるなかで、『北野縁起』によれば、道真が生涯を閉じて40年、天慶5年（てんぎょう942）7月、下京区に住む、巫女多治比文子に道真の託宣があり、生前よく遊んだ右近馬場に自分を祀るよう告げたが、文子はしばらく自分の家に叢祠（そうし）を構えて火雷神を祀っていた。（現在の下京区の文子天神宮）。その後、天曆元年（947）3月12日、近江国比良宮祢宜の良種の子、太郎丸（当時7歳）に託宣があつて、同年6月、北野天満宮が建てられ多治比文子の祀る叢祠も合祀されたという。

なお、多治比文子が下京区千本通り七条あたりで祀っていたのは火雷天神（饒速日尊）であったが、道真の怨霊の祟とされた清涼殿の落雷（火雷神）と結びつけて、北野天神社の創起となったと考えられる。

《撰社 文子社》 祭神、多治比文子。相殿に神良種（みわのよしたね）太郎丸 最鎮

《観音寺（東向観音寺）》

説明板には、創建は延暦25年（806）。創建当初は「朝日寺」と呼ばれていたが、応和元年（961）、筑紫国・観世音寺より菅原道真自作の十一面観世音菩薩を請来し、「観音寺」と呼ばれるようになった。以来、東向観音寺は道真自作の十一面観世音菩薩を本尊として祀り多くの人に崇敬されている。

《伴氏廟》境内の奥に据えられている五輪塔で、鎌倉時代の作。「伴氏廟」の名称は、道真の母親（大伴氏の出身）を祀った石塔とのこと。それにしても巨大！土壇の上に五輪塔の高さが4m。立派!!

「伴氏廟」は「忌明塔（いみあけとう）」としても知られている。忌明塔とは、四十九日の法要が終わった忌明けの日に参拝し、身体を清めるために参拝する石塔のこと。

⑧ 仁和寺 真言宗御室派の総本山

仁和4年（888）宇多天皇が先帝の遺志を継いで建て、年号に因んで仁和寺と名づけた。天皇は譲位後この寺に御室を営み、以来「御室御所」ともいわれていた。日本最初の門跡寺で、法親王が代々法燈をついだ。

昔は、堂塔坊舎が立ち並び、塔頭子院が60余りを数えたといわれ、寺域8㎞にわたっていたが、応仁の乱で全部焼失した。

江戸時代に入り、1634年に徳川将軍家光の支援により漸く復旧したが、明治25年再び火災にかかり、多くの堂塔を失った。境内は仁和寺御所跡として史跡に指定され、遅咲き桜（御室桜）の名所で名勝に指定されている。桜の品種は種々あり樹は低く、花期は4月中旬頃。



現在は、仁王門・金堂・御影堂・五重塔などがある。

《国宝 最古の紫宸殿「金堂」》

境内の北側に位置する金堂は、仁和寺の本堂。現在の金堂は1613年造営の内裏紫宸殿を移築したものであり、当時の宮殿建築を伝える現存最古の紫宸殿（しんでん）として、国宝に指定されている。

堂内には、本尊である阿弥陀三尊像や四天王像などが安置されている。

《五重塔、高さ36mにも及ぶ》

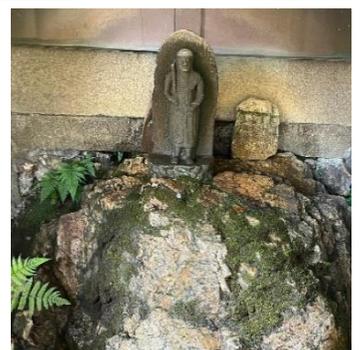
1644年に建立され、重要文化財に認定されている総高36.18mにも及ぶ巨大な塔。東寺の五重塔と同様に、上層から下層にかけて、各層の幅にあまり差が見られない姿が特徴。

初重正面には大日如来を意味する額が懸けられており、柱や壁面には真言八祖や仏をはじめ、桜花文様などが描かれている。

離れて見ても良いが、壁面などにも見どころがある五重塔。

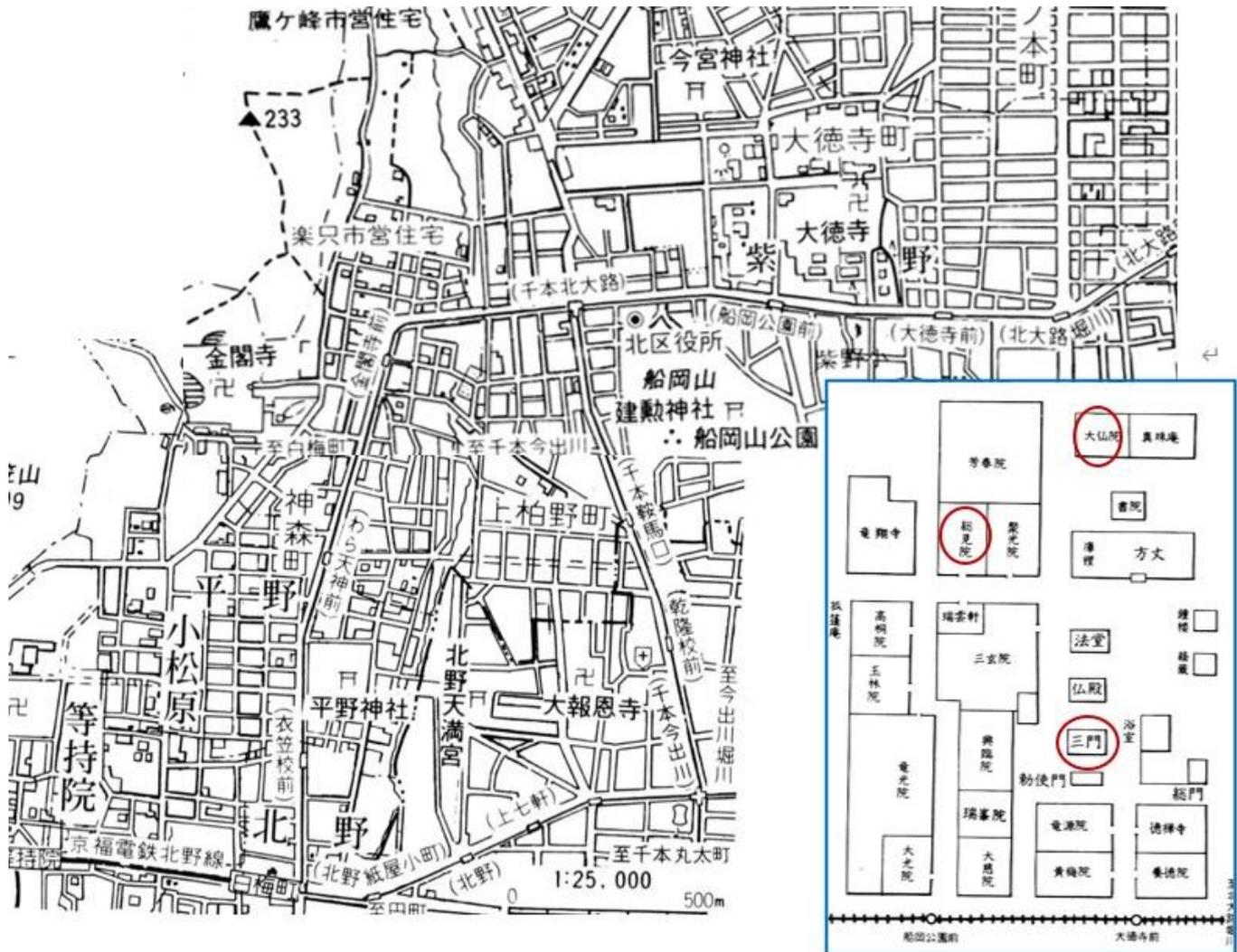
《一願不動と菅公・腰掛石》

水掛地蔵に長い柄杓（ひしゃく）で水を掛けると願いが1つ叶うという、一願不



動のお地藏さんが乗っている自然石が菅公腰掛石。

菅原道真が大宰府に流される途中仁和寺に立ち寄り、宇多上皇に冤罪を訴えるため、この石に座って待っていたという。しかし、残念ながら勤行中のため上皇に会うことはできなかったという。



《連絡》◎2026 年度 年会費納入のお願い

年会費は郵送会員 2500 円、Email 会員は 2000 円です。

：新たに Email 会員に登録されたい方は、minamifx56a1212@dune.ocn.ne.jp にお名前を明記して空 mail を送付してください。

4 月中に納入してください。方法は、

- ① 例会時に、本会計担当の小笠さんに手渡す
- ② 払込取扱票で納入 口座記号 00960 4 口座番号 129328 加入者 東大阪文化財を学ぶ会
納入金額を記入の上、通信欄の「郵送」「メール」にチェックを入れ、お名前、住所、連絡先を記入してください

◎2026 年度の歴史探訪、かわち野に吹く風 歴史文化講座年間予定表をお届けしています。

お知り合いの方々と、お誘いあってご参加いただければ大変有り難いです。

4 月の予定

歴史探訪 4 月 21 日 (火) 山城国一之宮上賀茂神社、下鴨神社を往く

歴史文化講座 4 月 25 日 (土) 宋に求めた「倭の五王」の狙いと、空白の 4 世紀 150 年間の謎
講師 清水 常男 (古代史研究家)